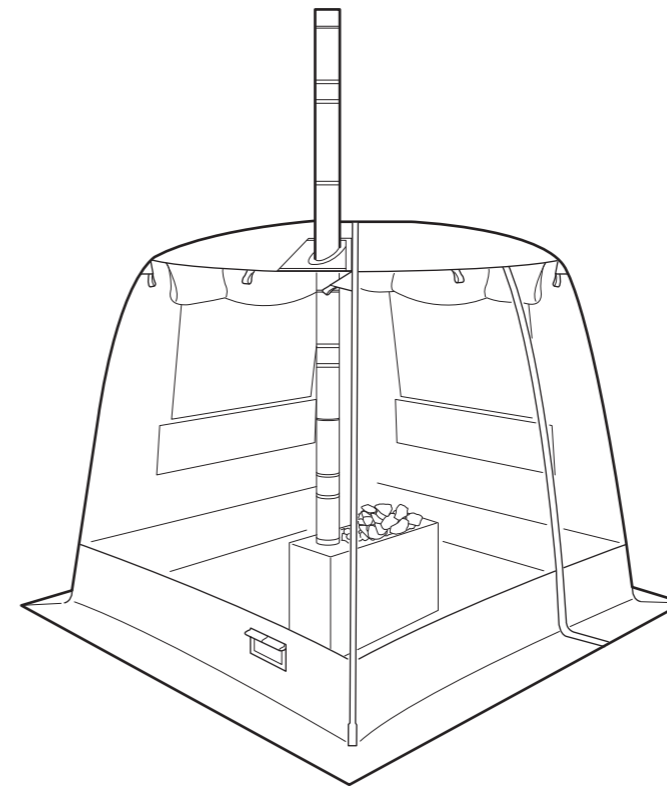




テントサウナ (MORZH/MORZH SKY)

本製品は屋外専用の携帯式サウナです。ストーブの上で熱したサウナストーンに水をかけることで蒸気を発生させ(ロウリュ)、体感温度をあげて発汗を促します。余計な水を地面に直接流すため、テントには床面がありません。



もくじ

1 安全上のご注意	1
2 同梱物のご確認	3
3 仕様	3
4 各部のなまえ	4
5 組立て手順	5
6 使いかた	9
7 入浴について	11
8 消火	11
9 撤収	12
10 メンテナンスと保管	13
11 緊急時の対処法	14
12 アフターサービス	14



株式会社サウナキャンプ

〒124-0023 東京都葛飾区東新小岩4丁目4番13号

TEL.050-5362-4658

MAIL.info@saunacamp.net

お問い合わせはHPをご覧ください。 <https://saunacamp.net/>

※ 本製品の仕様は、改良のため予告なしに変更する場合がありますのでご了承ください。

2020年5月

- このたびは、テントサウナ (MORZH / MORZH SKY) をお求めいただき、誠にありがとうございます。この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- お読みになった後は、いつでも見られるところで大切に保管してください。

1 安全上のご注意(安全のため必ずお守りください)

- この説明書では商品を安全に正しく取り付けていただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

危険 この表示の注意事項を守らないと、人が死亡または重傷を負う、または火災の危険が生じます。

警告 この表示の注意事項を守らないと、人が死亡または重傷を負う、または火災の危険につながる事があります。

注意 この表示の注意事項を守らないと、人が傷害を負う可能性や、物的損害の可能性がります。

- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。



してはいけない「禁止」内容です。



必ず実行していただく「強制」内容です。

危険

本製品は屋外専用のテント型携帯サウナです。屋内では使用しないでください。宿泊目的など、本書に記載された使用方法以外のご使用はおやめください。

禁止 ストープの扉を開けたまま使用しないでください(本書で指示のあるときを除く)。破損等により扉が閉まらない場合は、直ちにご使用を中止してください。テント内に一酸化炭素を含む煙や、火の粉が漏出する恐れがあり大変危険です。

本製品の分解や改造は絶対にしないでください。

煙突はしっかりと接続してご使用ください。外れたり緩んだりしたまま使用すると、一酸化炭素を含む煙がテント内に漏れるなど事故の原因となり大変危険です。ご使用前に必ず煙突がしっかりと接続されていることをご確認ください。

注意 使用中は換気口が塞がれていないか必ずご確認ください。降雪地域では雪で塞がれないようセッティング時にご確認ください。またホコリやゴミなどで塞がれないように注意し、常にテントの中へ新鮮な空気を取り込んでください。換気せず使用すると一酸化炭素中毒の危険や、燃焼不良の恐れがあります。

警告

本製品に破損や劣化が認められた場合はご使用をおやめください。

テントの中で火のついたままの薪や炭を、ストーブから取り出さないでください。火災、火傷の原因になります。

よく乾燥した薪以外のものをストーブで燃やさないでください。紙類など火の粉が飛散する燃料を燃やさないでください。煙突から火の粉が飛び散り、火災やテントの屋根等が損傷する原因になる可能性があります。

禁止 ストープの燃料に石炭・練炭・豆炭等の他の燃料は使用しないでください。一酸化炭素中毒の危険性があるほか、損傷、火災につながる恐れがあります。

ガソリン、プロパンガスなどの可燃性の液体や気体、及び乾電池やバッテリーをテント内に持ち込まないでください。火災や器具が破損する原因になります。

テント内で衣類等を乾燥させるのはお控えください。燃焼物を放置すると、火災の原因になります。

風速4mを超えるような強風時には、絶対に使用しないでください。

テントの中で煙の臭いなど少しでも異変を感じたら、すみやかにテントのドアを開けて換気してください。

注意 設営地は安全な場所をお選びください。水場の近くで設営するときは増水に注意が必要です。突然天候が悪化した場合に備え、速やかに身の安全が確保できる場所に設営してください。

警告

ご使用中は一定の時間で、張り綱の緩みや換気口の閉塞がないかを確認してください。また、定期的に換気を行なってください。

使用まえに煙突が閉塞していないかチェックし、ブラシなどを使って定期的に煙突掃除を行なってください。煙突の閉塞は、テント内への排気ガス漏出のほか、煙突からの火の粉の飛散による火災やテント屋根部分の損傷に繋がる可能性があります。



燃えにくく断熱効果のある手袋を必ずご用意ください。ストーブの燃焼中、および直後はストーブや煙突が高温になるため、操作する際は必ず着用してください。

サウナストーン(別売)は保温性が非常に高いので取り扱いに注意が必要です。ストーブの燃焼を停止してからもしばらく高温が持続しますので、火傷に十分ご注意ください。サウナストーンを取扱う際は手に持たず、火ばさみやトングをご使用ください。

注意

定員以上の込み合った状態では使用しないでください。人がテント内で転倒するとストーブやストーン、煙突に身体が触れ、火傷の恐れがあります。



使用中、保護者不在のままお子様やペットをテント周りで遊ばせないようご注意ください。張り綱に引っ掛かり、怪我やテントが倒壊する恐れがあります。

お子様だけでのご使用はおやめください。お子様でご使用になる場合は、常に大人の同伴が必要です。また、ご使用中にお子様を外で待つ際、保護者不在になることもおやめください。

ご使用前に必ず試し張りを行ない、付属品や設置手順をご確認ください。

お出かけの前に気象状況を十分に把握しておき、悪天候が予測される場合や、使用中に風や雨(雪)が強くなってきたらご使用を中止してください。

本製品には鋭利な部分がありますので、必ず手袋を着用してお取り扱いください。また、ストーブやサウナストーンを取扱う際は耐熱手袋を着用してください。

ストーブから取り除いた炭や灰の不始末は、火災の危険があります。再び燃え出さないよう適切に処分してください。

本書で使用が制限されている方他、使用中に気分が悪くなったら直ちに使用を中止してください。



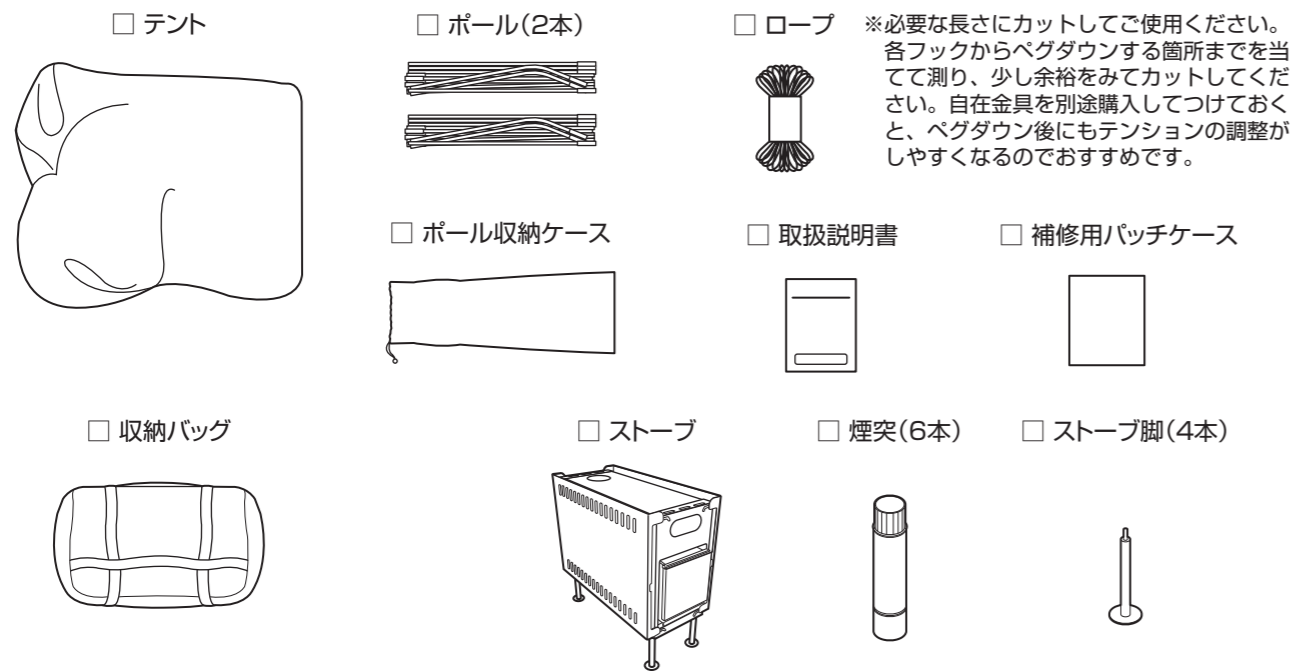
法令や地域の条例等により、たき火が禁止もしくは制限されている場所がありますのでご注意ください。また、火災に関する警報が発令された場合は、本製品を使用しないでください。

万が一に備えて、使用中はその場を離れず、水を張ったバケツなど、消火準備をしてからご使用ください。

多数の人が集まる催し(イベントやお祭りなど)において本製品を使用する場合は、防火担当者を定め、消防署へ事前に届出のもと、本書とあわせて法令等による定めを遵守してください。

セラミック製サウナストーンについて
MORZHではセラミック製サウナストーン(ケルケス等)はお使いいただくことはできません。
セラミック製ストーンは業務用サウナストーブでの使用を前提としており、テントサウナのストーブで使用すると爆ぜるなど事故に繋がる恐れがございます。香花石など天然のサウナストーンをご使用ください。

2 同梱物のご確認



●その他必需品(別売)

- サウナストーン (10~15kg 推奨)
- ベグ12本 (鋳造ベグ30cm以上 推奨)
- ハンマー (鋳造ハンマー 推奨)
- ベンチ・椅子
- 耐熱グローブ
- 薪 (含水量20%以下 推奨)
- 一酸化炭素チェッカー
- ロープ用自在金具
- 火ばさみ

●あると便利な物(別売)

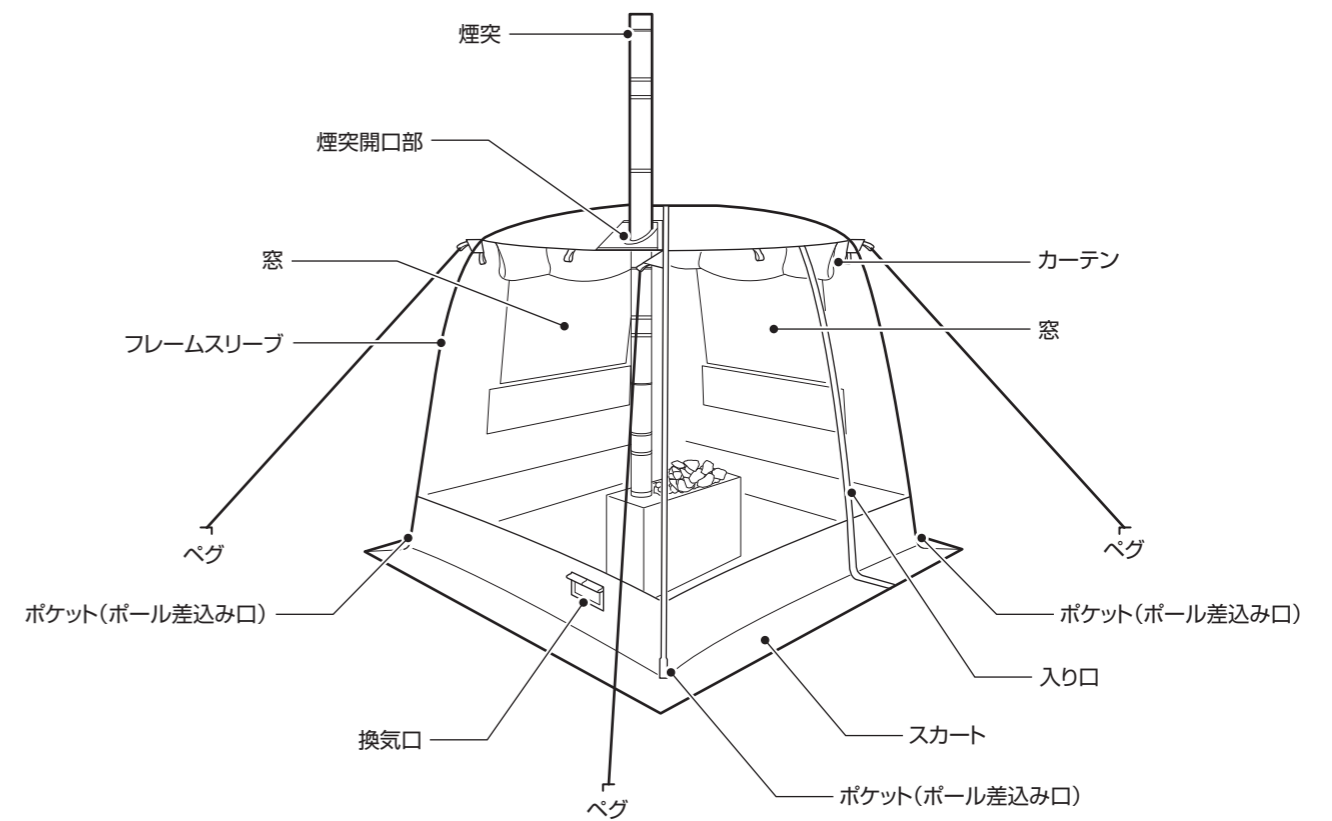
- バケツ&ラドル (柄杓)
- スコップ
- 灰捨てバケツ
- ヴィヒタ、サウナ用アロマオイル
- 温度計、湿度計

3 仕様

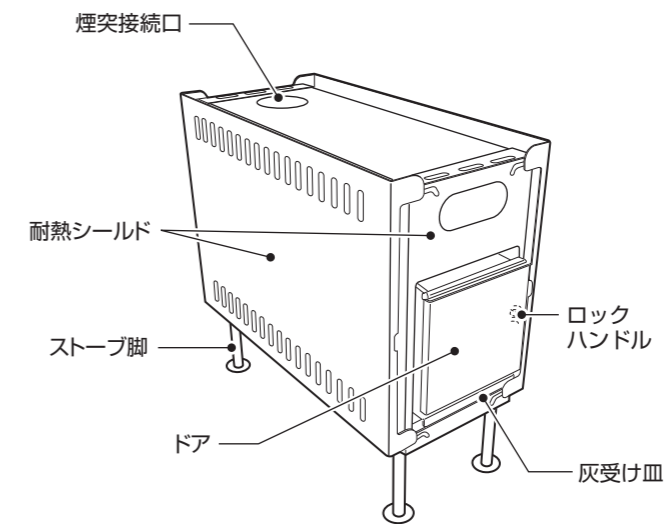
縦幅 (地面部)	2.05 m
横幅 (地面部)	2.05 m
側面の高さ	1.7 m
中心部の高さ	1.95 m
有効面積	4.2 m ²
テントの重さ	7 kg
収納サイズ	78×38×25 cm
素材	テント外側：ポリエステル テント内側・エプロン：リップストップナイロン 煙突開口部：スチールリング 窓：TPU (熱可塑性ウレタン) 煙突：ステンレス鋼
入り口	ジッパー式
定員	5名

4 各部のなまえ

●テント



●ストーブ



5 組立て手順

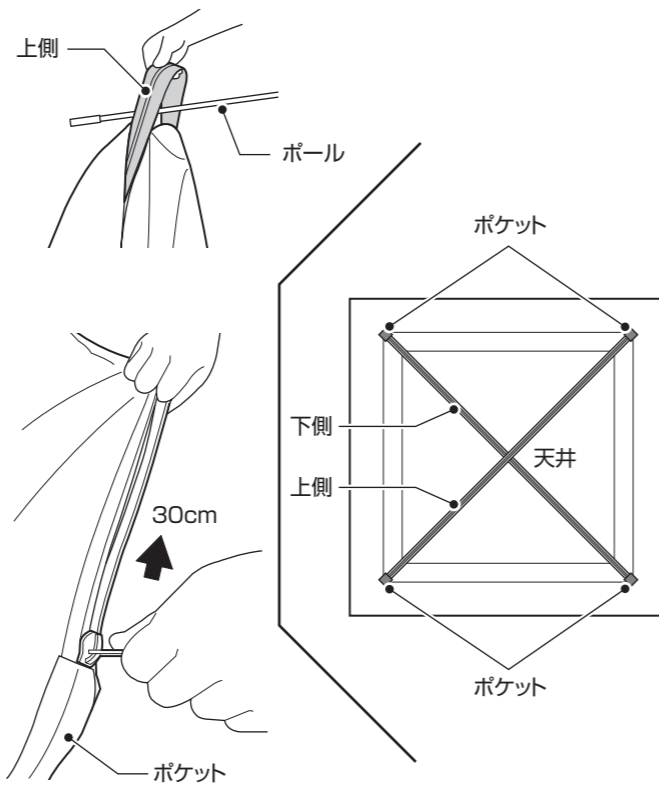
●テント

1 ポール組立て、テントへのインストール

1. 収納袋からテント、ポールを取り出します。ポールをつなげて2本のフレームにします。(1本に10個)

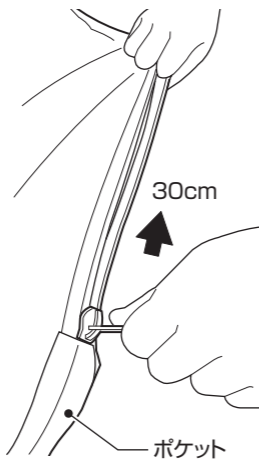


2. テントを綺麗に広げてフレーム差し込み箇所のジッパーを開けます。
入り口のジッパーは閉じておいてください。
ポールを組み込んで、ジッパーを閉めてください。
テントの天井部分でジッパーがクロスしています。

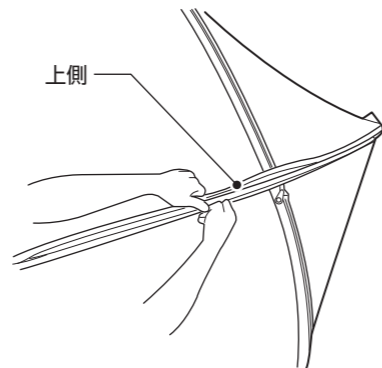


! 必ず最初に下側(浮いていない方)から差し込みます。

3. (1本目)
天井でクロスしている隙間から、1本目のポールを下へくぐらせます。次にポールの端の片方を、ポケットに差し込みます。差し込んだら30cmほど閉めてから、反対側(対角線上)もポケットに差し込みます。ポールが両方のポケットに入ったら、ジッパーを完全に閉めてポールをテントに固定させます。



4. (2本目)
同じ手順で、もう一本のポールも差し込みます。
2本目は天井部分でクロスしている上側のラインです。
同じ手順でジッパーを閉めていきます。
天井部分に手が届かない場合は、テントを横に倒してジッパーを完全に閉めます。
2本目のポールをテントに固定すると、自立します。



警告

- 安全のため、出来るだけ周りの大きな建物や樹木から離して設置してください。
- 出来るだけ平らな場所に設置してください。凹凸や傾斜のある場所に設置すると、ストーブがぐらついて大変危険です。
- ストーブの下部は非常に高温になります。ウッドデッキや枯れ草の上などで使用する場合は、燃えたり溶けたりしないようレンガなどで対策してください。また、芝生や草木にダメージを与える可能性もございます。
- 煙突の出口から周囲の燃える物がある場所まで、最低でも3m離してご使用ください。3m以内の周囲にタープやテントがある、枯れ草の地面がある場所では使用しないでください。
- ストーブとテント生地、及び可燃物の間には、最低でも30cmの隔離を設けてください。火災の原因となります。

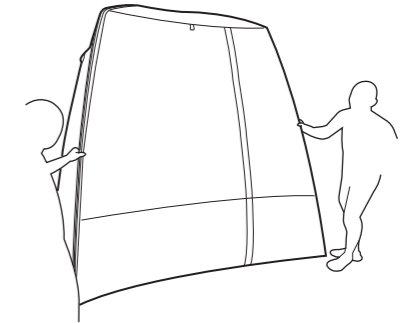


注意

- テントが風に煽られて破損するのを防ぐため、入り口は風下側になるように設置してください。
- フレームにテンションがかかっている状態では、跳ね返りで自身や他の人にケガをさせる恐れがありますので、十分に注意してください。
- 砂地、雪上、コンクリート上など、ペグでは固定できない場合もございます。地面に応じて固定方法を変えてください。

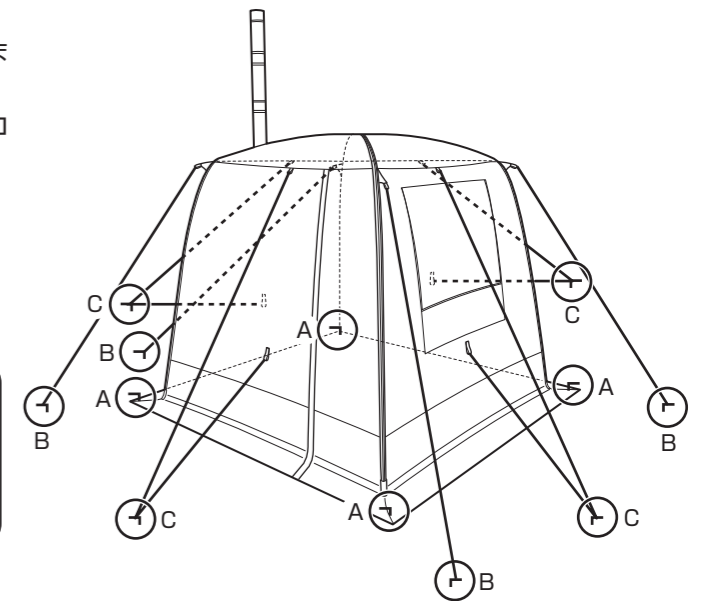
2 テントを地面に固定する

1. テントを設置場所まで移動します。
ペグ等で固定する前であれば、テントは移動可能です。



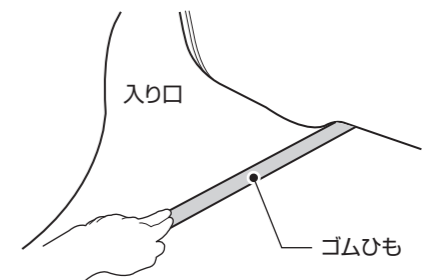
! 固定前にテントを移動する場合、必ず複数人でテントを持ち上げて動かしてください。引きずりながら移動するとテント底面が擦れてしまい、ポケットが破れてポールが引き抜けてしまう恐れがあります。

2. ペグとロープでテントを地面に固定します。
はじめにテントの四隅(A)をペグでしっかりと固定します。たわみがないか確認してからペグダウンしてください。次に、フックのついている全ての箇所(B,C)からロープを張り、地面にペグなどでしっかりと固定します。四隅だけペグダウンしても自立しますが、突風に煽られた場合、テントが横転することもあり大変危険です。必ずフック設置箇所からロープを張ってしっかりと固定してください。



! 特にストーブ裏の中段フック(C)はしっかりと固定してください。ストーブ裏の中段がしっかりと固定されていない場合、風で煽られてテントがストーブに接触し、テントが溶ける危険性があります。

3. 入り口の足元のゴムひもを固定します。
MORZHはフロアレスの構造上、形状を保つために入り口の下にゴムひもが張られています。
ゴムひもに足を引っかけないように、ペグや木板等で固定するとより安全です。



TIPS

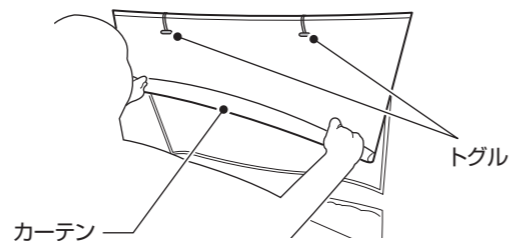
●ペグとハンマーについて
湖畔や川沿いのサイトは地面が硬いことも多いため、鋳造製のペグとハンマーをご用意いただくと安心です。ペグの長さは30cm以上のものがおすすめです。

5 組立て手順

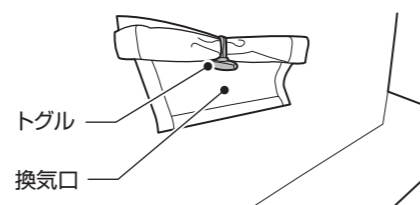
●テント

3 テントの使用準備をする

- カーテンを開けて固定します。
入り口から中に入り、テント内部のカーテンをロールアップしてトグルで固定します。

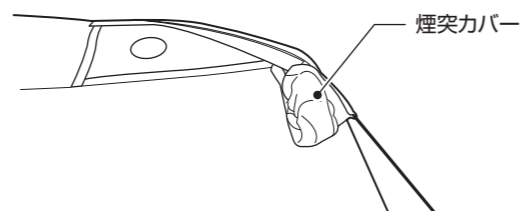


- テント外側の換気口を開けます。
換気口はテントの外側、ストーブの裏側の足元にあります。マジックテープを剥がし、丸めてトグルで固定します。



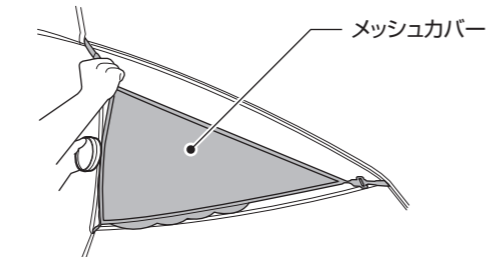
! 換気口は、使用中は必ず開けてください。

- テント外側の煙突カバーを開けて固定します。
テント外側、天井付近の煙突カバーのマジックテープを剥がし、くるくる丸めて右隅にマジックテープで固定します。一般的なテントとして使用する場合に、雨が入らないためのものなので、不要であればカッターなどで切り離してしまってもOKです。



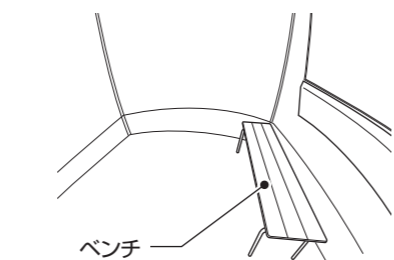
! しっかり固定されていないと、風で煽られて煙突に接触して溶ける恐れがあるので、完全に固定できたか必ず確認してください。

- テント内にメッシュカバーを取付けます。
テント内部の天井付近にはメッシュカバーが設置できます（任意）。温度計や一酸化炭素チェッカーなどを入れることができます。



! テント上部は非常に高温になりますので、上部に設置する場合、耐熱性のものお使いください。

- テント内にベンチを入れます。
着座で使用する際は、ベンチやチェアなどをテントの中に入れてください。

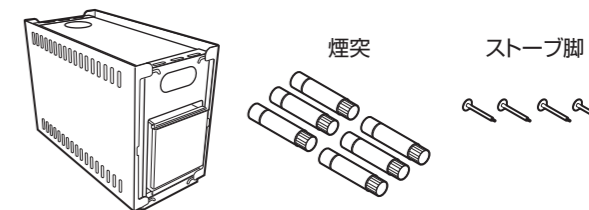


! ベンチなどの金属製の箇所は、非常に熱くなりますので、ご注意ください。

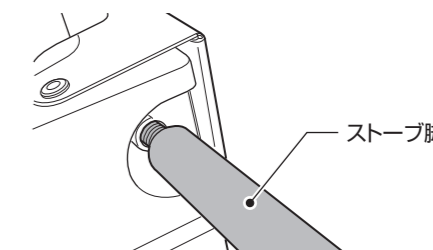
●ストーブ

1 ストーブの組立て

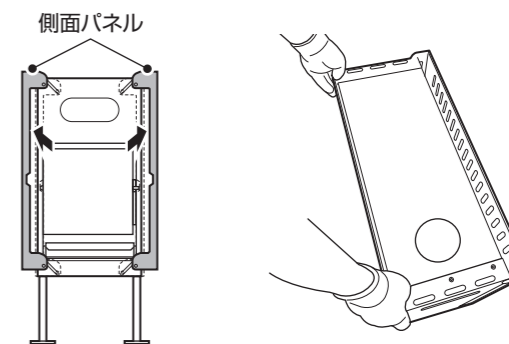
- 初めて使用する際は、ストーブにビニール類がついている場合がありますので、全て剥がします。
次に薪投入口のドアを開けて、中から煙突とストーブ脚を取り出します。



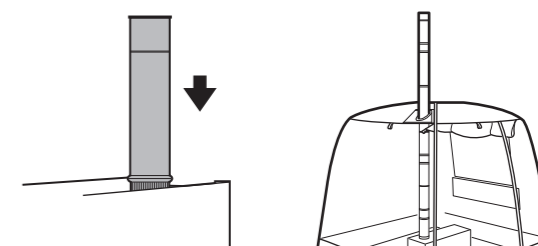
- ストーブ脚をストーブの底面に差し込みます。
ストーブの底面にある穴に、ストーブ脚×4を回しながら取り付けます。



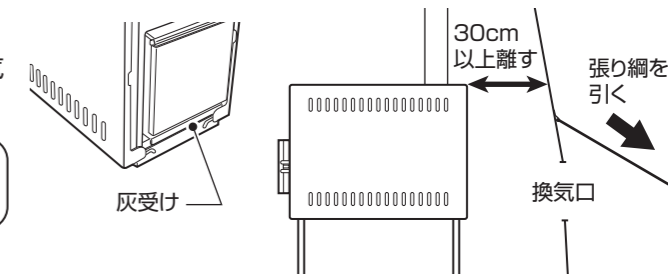
- 側面パネルを引き出します。
パネルを引き出して拡張すると、側面を触った際にヤケドしにくくなる他、下からの冷たい空気が温まって上に抜け、対流が発生しやすくなります。対流があるとロウリュをした際に蒸気が天井から降りてきやすくなります。
側面パネルを引き出したら、テントの中へ入れます。



- 煙突をつなげてストーブへ差し込みます。
6本の煙突をしっかりとつなげ、1つの長い煙突にします。煙突をテントの入り口から入れて煙突穴から出し、ストーブにしっかりと固定します。煙突がまっすぐになるように、ストーブの位置を調整してください。

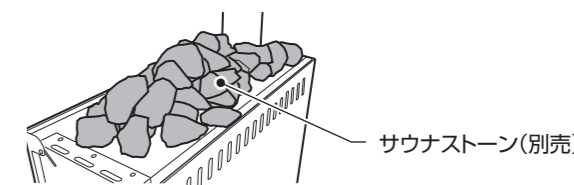


- 灰受けを開けて空気を取り込みやすくします。
灰受けを少しだけ開けます。灰受けを開けると炉に空気が入りやすく、燃焼しやすくなります。



! ストーブは、張り綱を引いてテントから30cm以上離してください。火事の原因になります。

- ストーブの上にサウナストーン（別売）を載せます。
サウナストーンを積み過ぎると、加熱されたストーンが落ちることもあるので、積みすぎに注意してください。



! 河原の石などを使用すると爆ぜる危険性もありますので、専用のサウナストーン以外は絶対に使用しないでください。

6 使いかた

! 火入れ後にストーブ、サウナストーンを触る際は、必ず耐熱グローブ着用してください。

●ストーブの火入れ

■組立・火入れ前の安全チェック項目

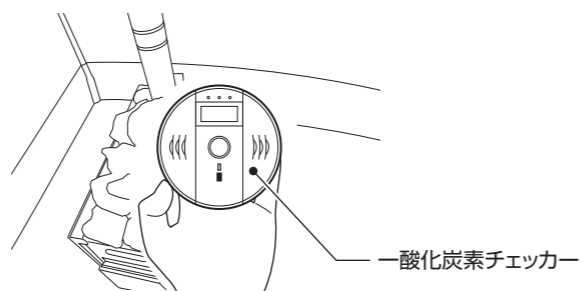
- ストーブはぐらつきがない平らな場所に設置している
- ストーブの周囲に溶けたり燃えたりするものを置いていない
- 煙突はしっかりと接続されている
- ストーブとテント生地には30cm以上の隙間がある
- 煙突の出口から3m以内には燃えやすいものがない
- ペグがしっかりと効いていて、ロープにゆるみがない
- 換気口がしっかりと開いていて、設置物や雪などで塞がれていない
- 煙突カバーは風で煽られないようしっかりと固定されている
- サウナストーンは積みすぎでならず、落ちてくる心配がない

1 一酸化炭素チェッカーの設置

ストーブに火入れをする前に、テント内に一酸化炭素チェッカーを設置してください。

基本的に一酸化炭素を含む有害物質は煙突を通じて外に排煙されますが、不完全燃焼を起こすとテント内に入る危険性がありますので、必ず設置してください。

一酸化炭素チェッカーが反応した場合は、速やかに換気を行ってください。プラスチック製のチェッカーは高温で変形する恐れがあります。(天井付近の場合)



2 着火剤、薪を投入する

細めの薪と着火剤をストーブの中に投入して、着火します。着火したらすみやかにストーブのドアを閉じ、しっかりとロックしてください。

ストーブが温まると煙突効果で上昇気流が生まれますが、火入れ直後は逆流しやすいので、換気しながら行います。定期的にストーブ内をチェックし、薪をくべてください。灰受けを少し引き出しておくことで空気が入りやすくなり、着火しやすくなります。



3 サウナ状態になるまで温める

着火から概ね40分程度でしっかりとサウナストーンに熱が伝わります。(薪の種類や外気温などによって異なりますので、目安とお考えください。)

温め中はテント内の温度が上昇して湿度が下がり、乾燥しますので、適宜床などに撒き水をして湿度をキープすると完成直後も入りやすいです。湿度調整を行わないままストーブを長時間燃焼し続けると、思わぬ高温になり、テントや中に置いているものが痛む可能性があります。

必ず10~15分に一度、状態をチェックしてください。

また、定期的に換気を行ってください。

! 金属部分を触ってしまうとヤケドをしてしまう恐れがあります。テント内のジッパーなど金属部分は触らないようにご注意ください。

●サウナの楽しみかた

1 ロウリュを楽しむ

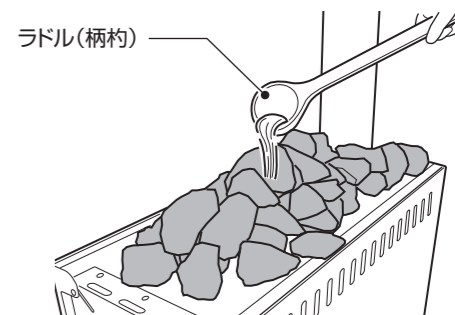
バケツに水を張り、アロマを混ぜてアロマ水にし、ラドル(柄杓)でサウナストーンにかけると、熱い蒸気が発生します。

体感温度が上昇し、身体が温まり、本格的なサウナ浴がお楽しみいただけます。一度に大量の水をかけると温度が熱くなりすぎ、ストーブにも負担がかかりますので、少しずつロウリュしてください。



警告

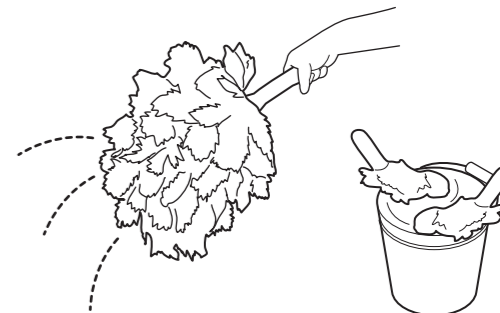
一度に多量のロウリュ(水かけ)を行うと、高温の蒸気が多量に発生して危険なのでおやめください。火傷の恐れがあるほか、急激な温度変化によりストーブやストーンを破損する恐れがあります。



2 ヴィヒタでウスキングを楽しむ

白樺などの枝葉を束ねたものをヴィヒタと呼びます。

ロシアやフィンランドではヴィヒタを身体に叩きつける行為をウスキングと呼び、血行促進や皮膚の引き締め効果があると言われています。テントサウナでウスキングを楽しむ際は、バケツに温水を入れ、そこにヴィヒタを浸けておくのがおすすめです。温水はヴィヒタのエキスが溶け出しやすく、アロマ水の代わりになります。



3 薪の量で温度を調整する

温度の設定は薪の量で調整します。目安として、ストーブのドアの高さの1/2くらいまで薪投入されている状態をキープしてください。



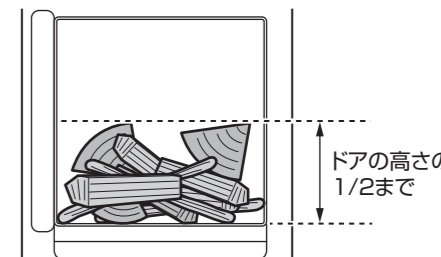
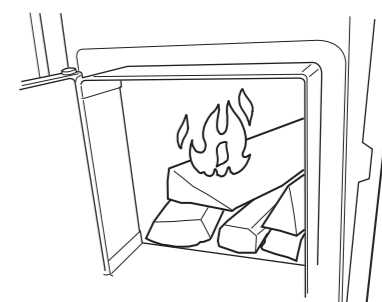
警告

ストーブ内に薪を詰めすぎると空気の流れが悪くなり、煙の逆流や不完全燃焼の原因(一酸化炭素の発生)につながります。不完全燃焼を防ぐためにも、必ず10~15分に一度はストーブ内をチェックしてください。



注意

<製品の赤熱について>
燃焼中に製品が一時的に赤熱するのは、燃料や空気の入れすぎによる過剰燃焼の予兆です。燃料や空気の調節が正しく行なわれても、部分的かつ一時的にストーブの表面が赤熱する場合があります。大抵の場合は程なくして消えますが、赤熱し続ける、または煙突が赤熱した場合は過剰燃焼の表れです。直ちに灰受け皿を全閉にして燃焼空気を遮断し、それ以上薪を投入しないでください。



4 換気について

定期的に換気することで、サウナ内が過ごしやすくなります。出入り以外にも、室内の温度が高すぎる時、息苦しさを感じた時などを含め、定期的に入り口を解放して空気の入れ替えを行ってください。

また、一酸化炭素チェッカーが鳴った際は必ず換気を行ってください。

7 入浴について

●入浴の身支度について

- 入浴の前に、めがね、時計、ピアス、宝石類などの身の回り品をすべて外してください。
- 着衣は金属製のファスナーや金具がついているものを避け、水着を着用してください。
- 足元は裸足を避け、サンダルなどを履いてください。

●入浴方法

1. 身支度を整えてからテントに入り、ドアを閉め、腰掛に座ります。
2. 身体を慣らすために、初めは汗が出てきたら一旦外に出て、水分を取りながら脈が落ち着くまで身体を休ませてください。
3. その後は徐々に入浴時間を長くしていきますが、無理をせず、長くとも15分程度にとどめ、次の入浴までの間には必ず水分補給とともに、脈が落ち着くまで十分な休憩の間隔をとってください。

⚠注意

次の方は入浴をおやめください。

・体調や気分がすぐれない方 ・酒気を帯びている方 ・乳幼児 ・妊娠中の方

⊘ お子様だけでのご使用はおやめください。お子様がご使用になる場合は、常に大人の監視が必要です。

入浴中に気分が悪くなったら、直ちに外に出て、無理をせず安静にしてください。

安全のため、入浴の身支度はテントの中では行なわないでください。

⚠ 病気や怪我の治療・療養中、薬を服用中の方は、必ず医師へご相談のうえ、ご入浴ください。

入浴中に気分が悪くなったら、直ちに外に出て、無理をせず安静にしてください。

※ 「1 安全上のご注意」もよく読んで入浴してください。

8 消火

- 消火は、ストーブのドアを閉じたまま、炉の中の薪や炭が自然に燃え尽きるまでお待ちください。



・消火のためにストーブに水をかけるのはおやめください。火傷や急激な温度変化による破損の原因となります。

・テントの中で火のついた薪や炭をストーブから取り出さないようにしてください。火災の原因となります。

9 撤収

⚠注意

ストーブ、煙突、サウナストーンが完全に冷めていることを確認してから作業を行なってください。

ストーブやテントの一部には鋭利な部分がありますので、グローブを着用して手を保護して作業してください。



製品の使用で出た炭や灰の不始末は火災の原因となりますので、しっかりと処理してください。

ストーブ、煙突は薄い鋼板で形成されているため、移動などに夜衝撃によって変形する場合がございます。取り扱いには十分ご注意ください。

※ 「1 安全上のご注意」もよく読んで撤収してください。

●ストーブの撤収

1. サウナストーンを取り除いてください。
2. 煙突をストーブから取り外してください。
3. 灰や燃えさしを取り出します。テントの中で処理をせず、ストーブをテントの外の安全な場所へ移動させてから処理しましょう。
4. 燃え残りの中には火種が残っている場合がありますのでご注意ください。ストーブから出した後は、水をかけるなどして完全に消火してください。
5. 4本のストーブ脚を取り外し、6本の煙突と一緒にストーブの内部へ収納してください。
6. ストーブカバーをかけてください。

●テントの撤収

1. ストーブの撤収後にテントを解体します。組立の逆手順で行なってください。
2. テントをきれいにたたみ、フレームとペグ、ロープの本数を確認したらバッグに収納してください。



注意

・風が強く吹いているときは、風下側からペグを抜いてテントが飛ばされないようご注意ください。

・撤収時にテントが濡れている場合は、なるべく早く陰干しをして乾燥して保管してください。濡れたまま保管すると、カビや臭いの原因となります。

10 メンテナンスと保管

●テント、収納袋、ロープのメンテナンス

- 洗濯機やドライクリーニングは生地の変色や色落ちの原因になりますので、ご使用にならないでください。
- ご使用後は、土や泥、ススなどの汚れをスポンジやウェスなどを使って洗い落とし、陰干しでしっかり乾燥させてから保管してください。汚れや水分が付着したまま保管すると、臭い、カビの発生や生地の変色の原因となります。
- テントの撥水効果が低下してきた場合は、市販の撥水剤をご購入いただき、取扱説明書の指示に従い、屋外で塗布してください。
- ファスナーのすべりが悪くなった場合は、市販の潤滑油などをブラシで塗布してください。

●フレーム、ペグのメンテナンス


- 汚れは濡れたタオルで拭き取りよく乾燥させてから、表面に市販の金属油を取扱説明の指示に従い塗布してください。

●ストーブ・煙突のメンテナンス

- ご使用後はストーブの炉および煙突内部のススや燃え残りなどを、ブラシ等を使って除去してください。水で洗う場合は柔らかいスポンジなどを使い、洗浄後はしっかり乾燥させてください。
- 燃焼による金属の変色は異常ではありませんので、金属磨き剤の使用や、ヤスリやペーパーがけは行なわないでください。
- ストーブは使用前後にメンテナンスとあわせて煙突に破損、亀裂、穴あきなどが点検し、破損が認められた場合はご使用をおやめください。

●保管

- メンテナンス後は、高温多湿の場所を避け、お子様の手の届かない場所で保管してください。
- ストーブが変形しますので、重いものを積み上げないでください。

 テントの常設は紫外線等や風雨の影響により劣化を早める原因となりますのでお勧めしません。

11 緊急時の対処法

万が一・・・

- 突然天候が急変する。
- テントが飛ばされそうになる。
- テント内に煙が充満する。
- テントに火がつく。
- ストーブが異常燃焼を起こす。

などが発生し、入浴中に身の危険を感じたら、

テントの中からドアを外に押し退けて素早くテントの外に退避し、まずはテントから離れて身の安全を確保してください。

12 アフターサービス

商品の品質には万全を期しておりますが、万一の不具合がございましたら、ご用命ください。

- 商品到着時の初期不良に関しては、原則として新品交換にて対応させていただきます。
- その他の故障、破損に関しては、お問い合わせください。弊社で内容もしくは商品を確認後、修理もしくはパーツ交換のご案内をさせていただきます。